

・海外感染症流行情報 2018年9月号

(1) 韓国でMERS患者が発生

韓国で中東から帰国した男性が中東呼吸器症候群（MERS）にかかっていることが明らかになりました（WHO Disease outbreak news 2018-9-12）。この患者はクウェートに3週間滞在し、9月7日、仁川空港に到着しました。肺炎の症状があったためソウル市内の病院に運ばれ、そこで診断がつけました。9月25日の時点で二次感染者は出ていません。韓国では2015年に186人の患者が発生するMERSの国内流行がありました。今回は早期に対応がされており、流行は拡大していない模様です。

(2) パプア・ニューギニアでポリオ患者発生

パプア・ニューギニアの首都ポートモレスビー近郊で、男児（6歳）のポリオ患者が確認されました（英国Fit For Travel 2018-9-11）。パプア・ニューギニアでは5月以来、ポリオ患者の発生が報告されていますが、首都近郊での患者確認は初めてです。日本の外務省は、同国を含めポリオ発生国に滞在する者に、ポリオワクチンの追加接種を推奨しています（外務省海外安全ホームページ 2018-9-3）。

(3) コンゴ民主共和国でのエボラ熱流行

コンゴ民主共和国・北東部で8月に発生していたエボラ熱の流行は、9月も続いています（WHO Disease outbreak news 2018-9-21）。新規患者の数は9月になり少なくなっていますが、ウガンダ国境近くの大都市Butembo近郊でも複数の患者が確認されています。9月中旬までの累積患者数は142人で、このうち97人が死亡しました。

(4) アフリカ各地でコレラの流行が発生

アフリカ北部のアルジェリアで8月初旬からコレラが流行しています（WHO Disease outbreak news 2018-9-14）。首都アルジェなどを中心に9月上旬までに200人以上の患者（疑いを含む）が確認されました。同国では20年ぶりの流行になります。アフリカ南部のジンバブエでも、9月から首都ハラレなどでコレラが流行しています（WHO Disease outbreak news 2018-9-20）。9月中旬までに患者数は3,600人（疑いを含む）にのぼり、32人が死亡しました。コレラには経口ワクチンがあります。日本では未承認ですが、一部のトラベルクリニックではこれを輸入し、希望者に接種しています。流行地域に滞在する際には接種を検討してください。

(5) ヨーロッパで西ナイル熱が流行

今年の夏はヨーロッパ各地で西ナイル熱の流行が発生しています（ヨーロッパCDC 2018-9-21）。9月20日までにEU諸国の患者数は1,134人にのぼっており、昨年の3倍以上の数です。とくにイタリアで453人、ギリシャで224人と患者数が多くなっています。西ナイル熱はイエカに媒介されるウイルス性疾患で、一部の患者は脳炎などをおこし、死亡することもあります。有効なワクチンや治療薬はなく、予防には蚊に刺されない対策をとります。イエカは夜間吸血する習性があるため、流行地域で夜間外出する際には、皮膚を露出しない服装をしたり、昆虫忌避剤を使用してください。

(6) 米国・ニューヨークの空港で呼吸器症状の患者が多発

ニューヨークのジョン・F・ケネディー空港で、9月5日にサウジアラビア・メッカから到着した飛行機の乗客・乗員約100人に、咳や嘔吐などの症状がみられました（ProMED 2018-9-6）。このうち10人はインフルエンザと診断されましたが、残りの乗客・乗員は心理的な影響で症状をおこしていたようです。メッカでは8月24日まで大巡礼が行われており、インフルエンザの流行がみられていました。

・日本国内での輸入感染症の発生状況（2018年8月13日～2018年9月2日）

最近1ヶ月間の輸入感染症の発生状況について、国立感染症研究所の感染症発生動向調査を参考に作成しました。出典：<https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr-dl/2018.html>

(1) 経口感染症：輸入例としては細菌性赤痢10例、腸管出血性大腸菌感染症5例、腸チフス・パラチフス2例、アメーバ赤痢5例、A型肝炎3例、ジアルジア症1例が報告されています。細菌性赤痢は3例が東欧のベラルーシでの感染でした。

(2) 蚊が媒介する感染症：デング熱は22例で、前月（10例）より大幅に増えました。このうち半数の11例がフィリピンでの感染でした。チクングニア熱は2例で、タイとフィリピンでの感染でした。マラリアは5例で、アフリカでの感染が3例、アジア（パキスタン、韓国）が2例でした。韓国では北部の江原道、京畿道で夏に三日熱マラリアの流行がおきます。

(3) その他：麻疹が2例（フィリピンとベトナムで感染）、百日咳が1例（フィリピンで感染）報告されています。

・今月の海外医療トピックス

旅客の「臭い」で緊急着陸

今年5月、オランダからスペインへ向かった旅客機が、「臭い」が原因で緊急着陸しました。ある乗客の「臭い」で、周囲の乗客が嘔吐や失神をする事態に陥ったそうです。

<https://metro.co.uk/2018/05/31/man-smelled-bad-flight-cabin-crew-tried-quarantine-plane-diverted-7595559/>

飛行中の機内は2分毎に換気され、1回の換気には、機内と機外の空気が半分ずつ利用されます。2009年の新型インフルエンザ流行以降、多くの機体がHEPAフィルターを搭載しており、機内の換気は皆さんが想像するより良いものです。しかし、飛行中は座席とトイレの移動以外、ほぼ自由がききません。開かない窓に精神的な「閉塞感」を感じる人もいます。「臭い」や「閉塞感」に対する閾値は人それぞれですが、それらから起こる健康被害の拡大が懸念されるため、機長は緊急着陸を判断したのです。「臭い」から逃れられない「閉塞感」が、旅客の健康を害する状況に陥らせたわけです。今後、航空業界でもこうした問題への対応が必要になることでしょう。（医師 栗田 直）